

## ⑤ 第5委員会

### 「水やエネルギーを大事にするまちづくり」



それでは、第5委員会の意見を発表します。

第5委員会のテーマは「水やエネルギーを大事にするまちづくり」です。

このテーマについて考えるために<sup>わたし</sup>私たちは、8月1日に水の歴史資料館<sup>しりょうかん</sup>の施設<sup>しせつ</sup>見学を行いました。

そこで、<sup>わたし</sup>私たちは、昔の人々が外国からお金を集め、一つ一つの材料を手づくりして水道や下水道をつくり上げたことを知り、すごいと思いました。今もおだなエネルギーを使わず、自然をうまく利用して必要な水を運んでいます。

また、災害<sup>さいがい</sup>時にも使える地下式給水栓<sup>せん</sup>について学びました。ただし、こうした便利なものは、その設置<sup>せっち</sup>場所<sup>せん</sup>や栓のあけ方・使い方についても、もっと広めていく必要があると思います。

<sup>わたし</sup>私たちは、みなさんに水の大切さを知ってもらい、こうした努力や考え方を大切にして、これからの社会<sup>はってん</sup>を<sup>わたし</sup>発展させていくことが大事だと思いました。

その後、<sup>わたし</sup>私たちは、施設<sup>しせつ</sup>見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「水やエネルギーを大事にするまち」にするためには、何をすればいいかを考えました。

それでは、<sup>わたし</sup>私たちが考えたことを順番に発表します。

## ○子ども議員

名古屋市では、水をじょう水するときに出る熱エネルギーをそのまま熱エネルギーとして使っています。ですが、これからは熱エネルギーを電気として使ったり、家庭からはい水として流れている水の運動エネルギーを電気エネルギーとして変えていく必要があると思います。

そのためには、名古屋市に住んでいる人全員が協力する必要があります。そうすれば、自分のまちの問題は自分たちで解決しようという自覚を持ち、いろいろな問題を解決できて、エネルギーも有効利用できると思います。

## ○子ども議員

私たちの住んでいる名古屋市では、じゃ口をひねれば水が出てきます。もし震災が起きたら、水が出てこないわけではありません。名古屋市では、災害に備えて、もしものときのために水をためています。なので、もし震災が起きても災害用のマンホールをあけてじゃ口をひねれば水が出ます。

ですが、震災が起きていないにもかかわらず、水をおだづかいするのはだめです。震災のひ害が大きければ大きいほど水は必要です。水を大切にしないと、水がどんどん減ってしまいます。名古屋市では、いつ大きな地震が起きてもおかしくないと言われていました。だからこそ、おだづかいはせずに、必要な分だけ使うことが大切だと思いました。

## ○子ども議員

水を大事にするということは、そもそも水のきれいさを保たないといけないから、工場のはい水や家庭で使った油や洗ざいなどで川をよごさないようにし、川をお染せずに、水を大事にしていきたいです。

そしてもう一つは、節水です。歯みがき中は水をとめたり、シャワーを流すとき以外は水をとめられると思います。このようなことに取り組んでいきたいと思っています。

## ○子ども議員

ぼくは、「水やエネルギーを大事にするまち」にするには、この考えを名古屋に住んでいる多くの人たちに知ってもらうことが大切だと思います。

くわしく説明すると、水やエネルギーに関するイベントや施設見学を実施したり、セミナーを開いたりして、水やエネルギーを大事にする考えを深めてもらうことが大事だと思います。

## ○子ども議員

名古屋市の水の1人当たりの消費量は約300リットルだと水の歴史資料館しりょうかんで教えてもらいました。300リットルは、大体お風呂1.5はい分くらいです。これを聞いて、みなさんはどう思いますか。私は意外わたしと多いなと感じました。私たちがどれだけ水をたっぷり使っているかがよくわかります。

私は、水の歴史資料館しりょうかんで川の水がきれいな飲み水になるまでのたくさんの過程かていを学びました。そして、川の水がじょう水されるまでの大変さを知りました。水やエネルギーを大切にするには、水の節約が大事だと思います。例えば、名古屋市民全員がコップ1ぱい節約すれば、1日に4万5800リットルも節約することができます。コップ1ぱいじゃなくても、名古屋市民全員が節約すれば、たくさんの水の量が節約できます。このことを名古屋市民に伝えることが大事だと思います。

## ○子ども議員

私は、名古屋を「水やエネルギーを大事にするまち」にするには、名古屋に住む一人一人が水の大切さをしっかりと理解りかいして、水の節約などをすることだと思います。

さらに、水の節約をしていくには、これくらいだったら水を流してもいいやなどという軽い気持ちをなくし、水がもったいないというちょっとした気持ちから始まるのではないかなとも思いました。

なので、私わたしはなるべく水を使わない方法、例えばなるべく水を使わない料理の仕方などを研究して実行してみたいです。

## ○子ども議員

私<sup>わたし</sup>たちは、水の歴史資料館<sup>しりょうかん</sup>で名古屋の上下水道の歴史について学びました。昔の人は、下水道をつくるために多くの費用が必要だったので、外国からもお金を集めて苦勞しながらも、下水道を完成させました。

水道から出る水は私<sup>わたし</sup>たちの目には見えますが、下水道から流れる水は私<sup>わたし</sup>たちの目には見えないので、今まで余り<sup>あま</sup>気にしませんでした。なかなか注目<sup>かんきょう</sup>されない下水道ですが、環境<sup>えいせい</sup>や衛生のことを考えるととても重要なことだとわかりました。

これから起こる大雨や地震<sup>じしん</sup>などの災害<sup>さいがい</sup>時にもとても大切だと思うので、もっと多くの人に下水道について知ってもらいたいと思います。

## ○子ども議員

名古屋市の水は、木曾川<sup>きそがわ</sup>の水が使われています。犬山取水口<sup>いぬやましゅすいこう</sup>からの水が自然<sup>ばい</sup>こう配<sup>なべやじょうすいじょう</sup>をほぼ使用して名古屋の鍋屋浄水場<sup>なべやじょうすいじょう</sup>にやってきます。そして、私<sup>わたし</sup>たちの家<sup>とど</sup>に届けられます。ほかにも大治浄水場<sup>おおはるじょうすいじょう</sup>からの水もあります。

さて、今、南海トラフきょ大地震<sup>じしん</sup>が近づいています。上水道局では、水道の管<sup>じしん</sup>を地震に強いものにしようとして取り組んでいます。つまり、いつでも水が使えるようにしようということです。名古屋の水をいつでも使えるように努力している人々<sup>わたし</sup>を私<sup>わたし</sup>たちは知り、水に感謝<sup>かんしゃ</sup>しなければいけません。

## ○子ども議員

私は、水の歴史資料館を見学して、水の大切さや歴史について学びました。たくさん<sup>わたし</sup>のことを勉強して、水は私<sup>わたし</sup>たちの生活に深くかかわっていると思いました。だれもが1日に1回は水を使っているし、水はなくてはならないものだからです。

そして、名古屋を「水やエネルギーを大切に<sup>よ</sup>するまち」にするには、水の出し過ぎ<sup>す</sup>やエネルギーの使い過ぎ<sup>す</sup>を防止<sup>ぼうし</sup>することを一人一人が心がけたり、節水を呼びかける運動を名古屋市全体でやる<sup>よ</sup>ことが大切だと思います。

## ○子ども議員

日本ではどのまちでも、じゃ口<sup>ぐち</sup>をひねるだけで水が簡単に手に入ります。値段<sup>ねだん</sup>など気にしたこともないくらい安いのだと思います。

だから、ついトイレの後に水をたっぷり流したり、お風呂でもたくさん使ってしまう。

でも、雨水から飲み水をつくることや、つくった飲み水をすべての家庭<sup>とど</sup>に届けることは非常に大変な<sup>ひじょう</sup>ことだとわかりました。これからは水をもっと大切にしないといけないと思いました。ぼく以外にもみんなに水の大切さを知ってもらい、みんなで水を大事にできたらいいなと思います。

<sup>わたし</sup> 私たち第5委員会は、このようなことが名古屋を「水やエネルギーを大事にするまち」にするために必要だと考えました。

これで、第5委員会の発表を終わります。

## ■ <sup>けいざい</sup>鈴木<sup>とうべん</sup>経済水道委員長の答弁

第5委員会のみなさん、すばらしい意見発表をどうもありがとうございました。

<sup>わたし</sup> 私たちの第5委員会は、「水やエネルギーを大事にするまちづくり」をテーマに、最初にまず水の歴史資料館<sup>しりょうかん</sup>へ視察<sup>しさつ</sup>に行きました。先ほども、第3委員会のお話の中で金鯪水<sup>きんこすい</sup>という言葉が出ましたけれども、名古屋のおいしい水道水、これは、ふだんみなさんじゃ口<sup>ぐち</sup>をひねれば安全で安心、おいしい水がすぐ飲めるという、この名古屋の水道事業、これがあるのは、先人の大変な苦労や努力の上に成り立っていること。これがよくわかっていただいたと思います。



また、命を守る大切な水が災害時<sup>さいがい</sup>にどのように供給<sup>きょうきゅう</sup>されるかを、地下式給水栓<sup>せん</sup>や給水車<sup>ちよくせつ</sup>を直接見て学んでいただきました。特に地下式給水栓<sup>せん</sup>では、この水が本当に安全かどうかを試薬<sup>かくにん</sup>で確認をして、安全かどうかを学んでいただきましたし、また、給水車では、6リットルの水のふくろに入れたものを持っていただいたと思

ますが、これが6キロあるということで、これを持ち運ぶのも大変なことだということがよくわかっていただけたと思います。

そして、この意見をまとめる際には、人の話を聞くことが上手な委員、また意見をまとめるのが上手な委員、そして率先して意見を言う委員など、それぞれ11名が個性豊かな意見を出し、そしてそれを子ども委員長と子ども副委員長を中心に、上手にまとめていただいたと思っています。

3日間という短い時間でしたが、いっしょに視察をし、学び、そして考えることができたことを大変うれしく思っています。また、今回の貴重な体験を今後の学校生活に生かしていただければ、うれしく思います。

最後になりましたが、吉田副委員長、塚本副委員長、教育委員会の野々川先生、そして事務局のみなさん、そして水の歴史資料館のみなさん、そして何よりも最大の子ども議員のサポートをしていただきましたご家族のみな様に感謝を申し上げまして、私の答弁とさせていただきます。本当にありがとうございました。そしておつかれさまでした。

